教科名	中学校　社会科（地理的分野）	学　年	１学年
単元名	第２編　世界のさまざまな地域　第２章　世界の諸地域 ２節　ヨーロッパ州―国どうしの統合による変化―	生徒数	31 名
		授業者	松林　一彦

１「深い学び」に向かう子どもの姿

①　知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿

②　情報を精査して考えを形成しようとする姿

２　単元の目標と観点別評価規準

・ヨーロッパ州で顕在化している地球的課題は、それらが見られる地域の地域的特色の影響を受け、現れ方が異なることを理解する。

・ヨーロッパ州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解する。

・ヨーロッパ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目し、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察、表現する。

・ヨーロッパ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を、主体的に追究しようとする。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ヨーロッパ州で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。 ・ヨーロッパ州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解している。	・ヨーロッパ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	・ヨーロッパ州について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を、主体的に追究しようとしている。

３　単元で働かせる見方・考え方

地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州の広がりや地域内の結び付きに着目し、地域的特色と関連付け多面的・多角的に考察する。

４　パフォーマンス課題（ディスカッション・ワークシート）

ヨーロッパ州の学習をまとめ、話合いをしよう

「ヨーロッパ州ではなぜ、統合をめぐるさまざまな動きがみられるのか」についてこれまでの学習で使用した資料から考え、「統合のきっかけ」や「統合がもたらした影響や課題」をそれぞれまとめ、「今後も統合を進めるべきか」についてまとめ、ディスカッションを行う。

５　ルーブリック

A	ヨーロッパ州の統合をめぐる様々な動きを、これまでの学習の地球的課題や州域内の結び付きから多面的・多角的に考察し、それらを基に自分の考えを述べている。
B	ヨーロッパ州の統合をめぐる様々な動きを、資料や知識を活用して考察し、自分の意見を述べている。
C	B 基準を満たしていない（ヨーロッパ州の統合をめぐる様々な動きを、資料や知識を活用して考察することが不十分であり、自分の意見を述べていない）。

６　ＩＣＴの活用の場面と工夫

タブレットを活用し、まとめをシートに入力する場面を設定することで、ディスカッションをする際にも有効に活用することができるようにする。

７　単元の指導と評価の計画（全５時間）		
時間	学習課題（◆）　主な学習活動（○）	評価の観点【　】評価規準
1	１　ヨーロッパ州をながめて ◆ヨーロッパ州の自然環境や文化、人口には、どのような特徴が見られるだろうか？ ○　ヨーロッパ州の自然、人口、民族、産業の特色や雨温図などの資料を通し、統合の背景を含む基礎的・基本的な知識を身に付ける。 **単元を通した課題** 《ヨーロッパ州では、なぜ統合をめぐるさまざまな動きが見られるのだろうか？》 **★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示** ○　パフォーマンス課題とルーブリックを確認し、単元を見通す。	【知・技】 ・ヨーロッパ州には、民族を基にした小国が多いこと、地域により異なる農業が盛んなこと、共通の文化が見られることなどを概観し、ヨーロッパ統合の背景を理解している。（ワークシート） 【態度】 ・ヨーロッパ州を概観して設定した探究課題の答えを予測し、見通しをもって主体的に追究しようとしている。（観察）
2	２　ヨーロッパ統合の動き ◆ヨーロッパでは、どのように統合が進んだのだろうか？ ○　ヨーロッパ州で統合されてきた内容を、写真、分布図などの資料や、統合を進めてきた理由や利点について、EU、アメリカ、日本を比較した資料を基に考察する。	【知・技】 ・ヨーロッパ州が統合を進めてきたことを、国境をこえた交通網や通勤・買い物、共通通貨などのさまざまな資料を関連付けることで読み取ることができる。（ワークシート） 【思・判・表】 ・ヨーロッパ州の国々が国境をこえて統合することの利点について、産業、人々の生活、交通の三つの視点から説明している。（ワークシート）
3	３　持続可能な社会に向けて ◆ヨーロッパでは、環境問題を改善するために、どのような取り組みが行われているだろうか？ ○　環境に配慮した人々の活動や、環境問題での国境を越えた協力がなされてきた背景を、地域的特色を踏まえ資料などから考察する。	【知・技】 ・ヨーロッパ州の環境に配慮した消費生活やエネルギー利用、観光に対する考え方などを資料から読み取り、理解している。（ワークシート） 【思・判・表】 ・ヨーロッパ州で起こっている国境を越えた環境問題について、EU 共通の取組の視点から考察している。（ワークシート）
4	４　EU がかかえる課題 ◆ヨーロッパでは統合により、どのような変化や課題が見られるだろうか？ ○　EU 加盟国間の格差や対立について資料から読み取り、ヨーロッパにおける産業の仕組みの変化や移民・難民などの EU の抱える課題について考察する。	【知・技】 ・EU 各国の一人当たりの国民総所得や、ヨーロッパに居住する外国人の出身地の主題図から、EU が抱える課題を読み取っている。（ワークシート） 【思・判・表】 ・ヨーロッパが統合することの問題点や課題を、EU 加盟国間の対立や EU と他地域との関係に着目して考察している。（ワークシート）
5	５　ヨーロッパ州の学習をまとめ、ディスカッションをしよう ◆ヨーロッパ州をまとめ、話合いをしてみよう。 **★パフォーマンス課題（ワークシート・口頭説明）** **★ＩＣＴの活用** ○　「ヨーロッパ州ではなぜ、統合をめぐるさまざまな動きがみられるのか」についてこれまでの学習で使用した資料から考え、「統合のきっかけ」や「統合がもたらした影響や課題」をそれぞれまとめ、「今後も統合を進めるべきか」についてまとめ、ディスカッションを行う。	【知・技】 ・これまで学んできたヨーロッパ州の地域的特色を踏まえて、地域統合が進んできた背景や良い影響、課題を図にまとめて振り返り、ヨーロッパ州の地域的特色を理解している。（ワークシート） 【思・判・表】 ・ヨーロッパ州において、地域統合が進んできた背景や良い影響、課題を踏まえて、今後どのようにしていくべきかについて多面的・多角的に考察し、表現している。（ワークシート・口頭説明） 【態度】 ・自らの学習を振り返りながら、粘り強く考察することを通して主体的に探求課題を追究し、社会に関わろうとしている。（口頭説明）

教科名	中学校　社会科（公民分野）	学　年	３学年
単元名	第２章　個人の尊重と日本国憲法	生徒数	31 名
		授業者	鈴木日向子

１「深い学び」に向かう子どもの姿

①　知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿

②　情報を精査して考えを形成しようとする姿

２　単元の目標と観点別評価規準

・人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解する。
・民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解する。
・日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解する。
・日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解する。
・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現する。
・人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。 ・民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解している。 ・日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解している。 ・日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解している。	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現している。	・人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

３　単元で働かせる見方・考え方

第２章の学習内容を、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、対話的な活動を通じ、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現する。

４　パフォーマンス課題（スライド・発表）

「基本的人権スライド」を作ろう
チーム：「平等権」「自由権」「社会権」「環境権・自己決定権」「知る権利・プライバシーの権利」
１チーム４～５名に分かれる。スライドは相談して表紙以外に１人１枚以上は作成する。

５　ルーブリック

A+	対立と合意、効率と公正、公人の尊重と法の支配などに着目して、日本国憲法において、人権保障が大切にされていたり、社会の変化に伴って新しい人権が認められたりしてきた理由について、多面的・多角的に考察している。また、私たちが社会とどのように関わっているか、関わるべきか具体的に考えている。
A	対立と合意、効率と公正、公人の尊重と法の支配などに着目して、日本国憲法において、人権保障が大切にされていたり、社会の変化に伴って新しい人権が認められてきたりした理由について、多面的・多角的に考察している。また、私たちが社会とどのように関わっているか、考えている。
B	対立と合意、効率と公正、公人の尊重と法の支配などに着目して、日本国憲法において、人権保障が大切にされていたり、社会の変化に伴って新しい人権が認められてきたりした理由について、多面的・多角的に考察している。
C	Ｂの基準を満たしていない。

６　ＩＣＴの活用の場面と工夫

パワーポイントのスライド作成を通して疑問に思ったことや更に調べたくなったことについて、ＩＣＴを活用して調べる場面を設定する。また、チームでスライドを作成し、他のチームと交流することで、新たな知識を習得することができるようにする。

７　単元の指導と評価の計画（全 13 時間）		
時間	学習課題（◆）　主な学習活動（〇）	評価の観点【 】評価規準
1 ～ 5	◆人権と憲法にはどのような関係があるのか。 〇　人権の考え方の歴史を学習しながら、様々な人権について考察する。 ◆日本国憲法はどのような考え方を基づいてつくられているのか。 〇　大日本帝国憲法との比較をもとに、立憲主義とはどのような考え方かを学習する。 ◆なぜ国民主権は大切なのか。 〇　国民主権とはどのような考え方で、その考え方はどのような制度に反映されているかを考察する。 ◆平和主義を掲げる日本は国際社会でどのような役割を果たしていくべきか。 〇　平和主義とはどのような考え方で、日本が抱える安全保障の考え方について理解し考察する。 ◆なぜ基本的人権を保障することが重要なのか。 〇　法の下の平等と個人の尊重という考え方について理解し、人権を保障する大切な考え方であることを理解する。	【知・技】 ・人権思想と憲法の歴史の学習を踏まえ、人権と憲法の関係から法の支配について理解している。（ワークシート） ・日本国憲法の三つの基本原理や国民主権、日本が平和主義を掲げる理由、個人の尊重について、本文の読み取りを通して理解している。（ワークシート） 【思・判・表】 ・日本国憲法が大切にされてきた理由について、多面的・多角的に考察している。 （ワークシート） 【態度】 ・国民主権が重要な理由を、法の支配を考察することを通して、主体的に社会に関わろうとしている。（観察）
6 ～ 9	★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示 ◆基本的人権にはどのようなものがあるか（１） 〇　班に分かれてスライド作りをする。 （考察・レイアウト→役割分担決め→スライド作り） ①平等権　②自由権　③社会権　④環境権・自己決定権 ⑤知る権利・プライバシーの権利 ★パフォーマンス課題（ワークシート・口頭説明） ★ルーブリックの活用 ★ＩＣＴの活用	【知・技】 ・基本的人権の種類とその権利が主張された経緯や背景、その権利を保障する法律などを理解している。（ワークシート） 【思・判・表】 ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現している。 （ワークシート・口頭説明） 【態度】 ・人権保障が大切にされている理由や社会の変化に伴って新しい人権が認められてきたりした理由について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。（ワークシート・観察）
10 ～ 13	◆基本的人権にはどのようなものがあるか（２） 〇　班に分かれてスライド発表する。 〇　人権についてのプリントに取り組み、理解を深める。	【知・技】 ・他の人が作成したスライドやその発表を見て、基本的人権について理解している。 （ワークシート、プリント） 【態度】 ・人権保障が大切にされている理由や社会の変化に伴って新しい人権が認められてきたりした理由について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。（スライド、観察）

教科名	中学校　社会科　地理的分野	学　年	２学年
単元名	第３章　日本の諸地域　７節　北海道地方	生徒数	41 名
		授業者	梅原　翔太

１「深い学び」に向かう子どもの姿

①　知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿
③　問題を見いだして解決策を考えようとする姿

２　単元の目標と観点別評価規準

・北海道地方について、その地域的特色や地域の課題を理解する。
・自然環境を中核とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。
・北海道地方において自然環境の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察、表現する。
・北海道地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・北海道地方について、その地域の特色や地域の課題を理解している。 ・自然環境を中核とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。	・北海道地方において、自然環境の成立の条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	・北海道地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

３　単元で働かせる見方・考え方

北海道地方の学習において、自然環境の成立の条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察する。

４　パフォーマンス課題（パンフレット）

都道府県魅力度ランキングで北海道が 13 年連続１位を取ることができた理由とは？（※ブランド総合研究所）
北海道地方の魅力をパンフレットで表現しよう。

５　ルーブリック

A	北海道地方の自然環境の成立の条件、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、人を引き付けている理由を多面的、多角的に考察し具体的に表現している。
B	北海道地方が人を引き付けている理由を考察し表現している。
C	B 基準に達していない。

６　ＩＣＴの活用の場面と工夫

・デジタル教科書、タブレットドリル、ワークシートなどでタブレットを使用している。
・パフォーマンス課題に取り組む際には、既習事項を見直すだけでなくインターネットなども活用し、更に多面的、多角的な視点からパフォーマンス課題解決に向け取り組めるように工夫する。

７　単元の指導と評価の計画（全５時）		
時間	学習課題（◆）　主な学習活動（○）	評価の観点【　】評価規準
1	１　北海道地方をながめて ◆北海道の特色とは？ ★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示	【知・技】 ・日本の約 20%を占める広大な面積、冷帯に属する気候、盛んな農業、少ない人口などの特色を理解し、その知識を身に付けている。（確認テスト）
2	２　自然の制約に適応する人々の工夫 ◆北海道地方に住む人々の工夫とは？ ★ルーブリックの活用 ※　パフォーマンス課題のカギになるキーワードを確認する。	【知・技】 ・冬の寒さや火山活動による厳しい自然環境に対して、人々がどのような工夫を行っているのかを資料などから適切に読み取っている。（確認テスト） 【思・判・表】 ・北海道地方では、冬の寒さや火山、豊かな海を利用した産業が行われていることを多面的・多角的に考察し、表現している。（確認テスト）
3	３　自然の制約や社会の変化を乗りこえる ◆北海道地方の農業の特色とは？ ★ルーブリックの活用 ※　パフォーマンス課題のカギになるキーワードを確認する。	【知・技】 ・農業に適さない気候や土壌の問題に対して、人々がどのように対応し、乗り越えて農業を営んできたか理解し、その知識を身に付けている。（確認テスト） 【思・判・表】 ・現在、北海道の人々が直面している課題に対して、どのように対応すべきかを多面的・多角的に考察している。（ワークシート）
4	４　自然の特色を生かした産業 ◆北海道地方の観光業の取り組みとは？ ★ルーブリックの活用 ※　パフォーマンス課題のカギになるキーワードを確認する。	【知・技】 ・気候の特色によって、北海道地方への観光客が８月に多いことを理解している。（確認テスト） 【思・判・表】 ・北海道地方の観光業について、広がるエコツーリズムなどの持続可能な社会づくりと関連付けて考察し、表現している。（ワークシート）
5	北海道地方のまとめ ◆都道府県魅力度ランキングで北海道が 13 年連続１位を取ることができた理由とは？北海道地方の魅力をパンフレットで表現しよう。 ★パフォーマンス課題（パンフレット）・ＩＣＴの活用	【知・技】 ・自然環境を中核とする考察の仕方を基に、学んできた北海道地方の地域的特色やそこで生じる課題をパンフレットにまとめて振り返り、理解している。（パンフレット） 【思・判・表】 ・北海道地方は、自然環境の影響を受けつつ、たくさんの農作物を出荷したり、観光客を引き付けたりしている理由を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を生かして、「パンフレット」という形で表現している。（パンフレット） 【態度】 ・主体的に探究課題を追究し、社会に関わろうという態度を示している。（パンフレット）

教科名	中学校　国語科	学　年	２学年
教材名	敦盛の最期ー平家物語ー	生徒数	50 名
		授業者	山田　優里

１「深い学び」に向かう子どもの姿

④　思いや考えを基に創造しようとする姿

２　単元の目標と観点別評価規準

・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。
・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えることができる。
・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。	・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。	・進んで「平家物語」を読み、学習課題に沿って引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりしている。

３　単元で働かせる見方・考え方

古典独特の表現に着目し、作品の内容や登場人物の心情を読み取り、読み取った内容が効果的に伝わるような朗読の工夫を考える。

４　パフォーマンス課題（朗読・ワークシート）

「敦盛の最期」の世界を朗読で表現しよう。
「敦盛の最期」の物語の展開や登場人物の心情を読み取り、それが効果的に伝わるような朗読の工夫を考え、表現しよう。

５　ルーブリック

A	古典独特の表現に着目し、記述を根拠に、物語の展開や登場人物の心情の変化を深く読み取り、朗読の工夫を考えている。
B	古典独特の表現に着目し、記述を根拠に、物語の展開や登場人物の心情の変化を読み取り、朗読の工夫を考えている。
C	Ｂの基準を満たしていない。

６　ＩＣＴの活用の場面と工夫

動画撮影：朗読の様子を撮影し、変容を確認できるようにする。
Teams：共同編集で台本を作成し、作業の効率化、グループでの考えの深化を図る。

７　単元の指導と評価の計画（全６時間）		
時間	学習課題（◆）　主な学習活動（○）	評価の観点【　】評価規準
1	◆「平家物語」について知ろう。 ○　「NHK10min.」を見て「平家物語」の概要を知る。 ○　冒頭部分の視写と音読を行い、歴史的仮名遣いの復習をする。 ★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示 ○　「敦盛の最期」の範読を聞く。	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして古典の世界に親しんでいる。 （観察、ワークシート）
2	◆「敦盛の最期」を読み、敦盛の人物像を捉えよう。 ○　「敦盛の最期」を音読する。 ○　敬語表現をヒントにせりふの発言者を確認する。 ○　敦盛の「直実に対して名乗らなかった」「『ただとくとく首をとれ。』と発言した」点に着目して、敦盛の人物像を読み取る。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。 （観察、ワークシート）
3	◆「敦盛の最期」を読み、直実の人物像を捉えよう。 ○　「敦盛の最期」を音読する。 ○　「直実が出家したいという気持ちを深めたのはなぜか」という問いを通して、直実の人物像や心情の変化を読み取る。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。 （観察、ワークシート）
4・5	◆班で協力して、朗読の台本をつくろう。 ○　前時までの学習内容を確認する。 ○　Teams の共同編集機能を活用して、班で朗読の台本を作成する。 ○　班での朗読をタブレットで録画し確認しながら、よりよい朗読になるよう工夫する。 ★ＩＣＴの活用	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。 （観察、ワークシート） 【態度】 ・進んで「平家物語」を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりしている。（観察、台本）
6	◆朗読発表会をしよう。 ★パフォーマンス課題（朗読・ワークシート） ○　班ごとに朗読を発表し合う。 ○　朗読を通して学んだことを振り返る。	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして古典の世界に親しんでいる。 （観察、ワークシート） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。 （朗読、ワークシート） 【態度】 ・進んで「平家物語」を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりしている。（観察、台本）

教科名	中学校　理科（第１分野：エネルギー）	学　年	１学年
単元名	光・音・力による現象 １章　光による現象	生徒数	８名
		授業者	乾　　克彦

１「深い学び」に向かう子どもの姿

①　知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿

２　単元の目標と観点別評価規準

・光に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、光の反射や屈折、凸レンズの働きについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けること。
・光に関する事物・現象について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働きの規則性や関係性を見いだして表現すること。
・光に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとすること。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・光に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、光の反射や屈折、凸レンズの働きについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・光に関する事物・現象について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働きの規則性や関係性を見いだして表現している。	・光に関する事物・現象に進んで関わろうとしたり、物理現象について、問題を見いだそうとしたりしながら、科学的に考えようとしている。

３　単元で働かせる見方・考え方

光に関する事物・現象について、光の進み方などに着目して、光の反射や屈折、凸レンズの働きの規則性や関係性を比較したり、関連付けたりして考える。

４　パフォーマンス課題（実験レポート）

凸レンズの像のでき方について実験レポートを作成しよう

重さや手触り等の実感がない光の法則の理解はとても難しいものです。空気⇒ガラス　ガラス⇒空気　の光の進み方について学びます。光の屈折を原理とする凸レンズの像のでき方の実験を行い、実験手順と結果、考察について、実験レポートを作成しましょう。

５　ルーブリック

A	屈折の原理と凸レンズの関係性を考察し、原因や関係していること示して問題を見いだいして表現している。
B	屈折の原理と凸レンズの関係性を考察し、得られた気付きや疑問を基に、問題を見いだして表現しているが、原因までは表現していない。
C	Ｂの基準を満たしていない（得られた気付きや疑問を基に問題を見いだして表現していない）。

６　ＩＣＴの活用の場面と工夫

・パワーポイント

水によってコインの見え方が変わる現象。光が空気中→水中、水中→空気中へ進む道筋の説明。

（光の進み方の方向性と屈折のイメージ形成のため）

７　単元の指導と評価の計画（全９時間）		
時間	学習課題（◆）　主な学習活動（○）	評価の観点【　】評価規準
１・２	◆空気中の光の進み方はどうなっているでしょうか。 ○　光源装置や鏡、分度器を使って、入射角を変えたときの反射角を測定する。 ○　入射角と反射角の関係を考える。 ○　鏡で光がはね返るときの規則性を理解する。 ○　物体が見えるしくみを理解する。 ★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示	【知・技】 ・光源装置や鏡、分度器を使って、入射角を変えたときの反射角を測定することができる。（観察・ワークシート） ・鏡で光がはね返るときの規則性を理解できる。（観察・ワークシート） ・物体が見える仕組みを理解できる。（ワークシート） 【思・判・表】 ・入射角と反射角の関係を考察している。（ワークシート）
３～５	◆異なる物質での境界での光の進み方はどうなっているでしょうか。 ○　水によってコインの見え方が変わる現象について考える。 ○　異なる物質の境界面における光の進み方の理由を考える。 ○　光が空気中から水中へ、また水中から空気中へ進むとき、境界面で屈折する角度を測定する。 ○　入射角と屈折角の関係を考えよう。 ○　光が空気中から水中などへ進むときの規則性を理解する。 ○　光が水中などから空気中へ進むときの規則性を理解する。 ○　白色光にはいろいろな色の光が混ざっていることを理解する。 ★ルーブリックの活用・ＩＣＴの活用	【知・技】 ・光が空気中から水中へ、また水中から空気中へ進むとき、境界面で屈折する角度を測定することができる。（観察・ワークシート） ・光が空気中から水中などへ進むときの規則性が理解できる。（観察・ワークシート） ・光が水中などから空気中へ進むときの規則性が理解できる。（観察・ワークシート） ・白色光にはいろいろな色の光が混ざっていることが理解できる。（ワークシート） 【思・判・表】 ・異なる物質の境界面における光の進み方に着目し、理由を考えて表現している。（実験レポート） ・入射角と屈折角の関係を考察している。（実験レポート） 【態度】 ・水によってコインの見え方が変わる現象について問題を見いだそうとしている。（振り返りシート）
６～８	◆凸レンズはどのようなはたらきをするのでしょうか。 ○　凸レンズを使ったときの物の見え方について調べ、問題を見出そうとする。 ○　凸レンズによる様々な現象を観察する過程で、凸レンズを通る光の進み方に着目し、像ができる理由を考え表現する。 ○　凸レンズを通る光の進み方を基に、どの位置にどのような像ができるのかを作図によって求める。 ○　凸レンズによってできる像を調べる実験を行い、物体と凸レンズの距離によって像の位置や大きさ、向きが変わることを調べる。 ○　実験結果を基に、実像と虚像のできる条件を見いだす。 ○　凸レンズによる像のでき方の規則性を理解する。 ○　凸レンズの働きについて振り返り、凸レンズを通る光の進み方と像のでき方について科学的に考える。 ★ルーブリックの活用	【知・技】 ・凸レンズによってできる像を調べる実験を行い、物体と凸レンズの距離によって像の位置や大きさ、向きが変わることを調べることができる。（観察・ワークシート） ・凸レンズによる像のでき方の規則性を理解する。（ワークシート） ・凸レンズを通る光の進み方をもとに、どの位置にどのような像ができるのかを作図によって求めることができる。（ワークシート） 【思・判・表】 ・凸レンズによるさまざまな現象を観察する過程で、凸レンズを通る光の進み方に着目し、像ができる理由を考え表現している。（ワークシート） 【態度】 ・凸レンズを使ったときの物の見え方について調べ、問題を見いだそうとしている。（観察・ワークシート）
９	★パフォーマンス課題（実験レポート） ◆凸レンズの像のでき方について実験レポートを作成しよう。	【思・判・表】 ・実験結果を基に、実像と虚像のできる条件や関係性について、気付きや疑問を基に、問題を見いだして表現している。（実験レポート） 【態度】 ・凸レンズのはたらきについてふり返り、凸レンズを通る光の進み方と像のでき方について科学的に考えようとしている。（実験レポート）

教科名	中学校　英語科	学　年	３学年
単元名	Lesson6 “Why do We Have to Work?	生徒数	26 名
		授業者	関谷昂二郎

１「深い学び」に向かう子どもの姿

①　知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿

③　問題を見いだして解決策を考えようとする姿

２　単元の目標と観点別評価規準

・話合い活動において、相手の意見の要点を聞き取り、自分の考えを整理しながら自分の意見を述べることができる。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・意見を述べるときの基本的な表現を理解している。(SI) ・日常的または社会的な話題について、意見を述べるときの基本的な表現を利用して伝え合う技能を身に付けている。(SI) L:聞く　R:読む　W:書く SP:話すこと〔発表〕 SI:話すこと〔やり取り〕	・あるテーマについての他者の意見を知り自分の意見や考えを伝えるために、話を聞いて、要点を捉えている。(L) ・相手の意見を聞いて自分の意見を深めたり、自分の意見を伝えたりするために、日常的または社会的な話題について自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。(SI)	・あるテーマについての他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために、話を聞いて要点を捉えようとしている。(L) ・相手の意見を聞いて自分の意見を深めたり、自分の意見を伝えたりするために、日常的または社会的な話題について自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えようとしたりしている。(SI)

３　単元で働かせる見方・考え方

外国語やその背景にある文化を理解して、話合い活動にて意見を述べるときの表現に着目し、相手の意見を聞いて自分の意見を深めたり、伝えたりするために、自分の意見を整理しながら考えを形成し、再構築する。

４　パフォーマンス課題（ペアでの話合い）

10 個のトピックから無作為に３つ選び、それについてペアで意見を伝え合おう。

※　トピックは単元計画の１時間目に予め提示しておき、授業内で準備・練習を行う。

５　ルーブリック

Interaction	A：準備したプリントを見なくても、相手と意見を伝え合っている。 B：準備したプリントを見ながら、相手と意見を伝え合っている。 C：準備したプリントを見ても、相手と意見を伝え合えていない。
Accuracy	A：適切な表現方法を使い、会話を続けている。 B：表現方法に多少の誤りがあるが、相手と意思の疎通ができる会話をしている。 C：表現方法に誤りが多く、情報が伝わっていない。
Reaction	A：相手の意見について、相づちを打ったり、それに対しての自分の考えや感想を伝えたりしながら反応を示している。 B：相手の意見について、相づちを打つなどの反応を示している。 C：相手が話をしても、反応を示さず、自分の意見を伝えるだけになっている。

６　ＩＣＴの活用の場面と工夫

パフォーマンステストに向けての練習の中で、話合い活動の様子を動画で撮る。声の大きさ、発音、相づちなどの反応を客観的に見ることで、改善へつなげる。また、ロイロノートの付箋機能を利用し、子どもたちが出し合った「相づち表現」を共有することで、自分の話合い活動に生かすことができるようにする。

７　単元の指導と評価の計画（全８時間）		
時間	学習課題（◆）　主な学習活動（○）	評価の観点【　】評価規準
1	Part 1 ◆話合いの始め方、自分の意見の言い方について理解する。 ○　導入での言語活動や、プリントを用いての練習問題、話合い活動 **★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示** （３つのテーマ決め）	【知・技】 ・話合いの始め方と自分の意見の言い方について理解している。 （プリント、観察）
2	Part 1 ◆話合いの始め方、自分の意見の言い方を使って話合いをする。 ○　Lesson6-1 教科書本文を用いての新出単語、重要表現や重要語句の確認	【思・判・表】 ・前時の内容を踏まえて、自分の考えを簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。（観察）
3	Part 2 ◆相手への話の振り方、話し始めのワンクッションの言い方について理解する。 ○　導入での言語活動、プリントを用いての練習問題、既習事項との関連付けを通しての定着、話合い活動	【知・技】 ・重要表現を理解し、意見を述べるときの基本的な表現を利用して伝え合う技能を身に付けている。 （プリント、観察）
4	Part 2 ◆相手に話を振りながら、話合いをする。 ○　Lesson6-2 教科書本文を用いての新出単語、重要表現や重要語句の確認	【思・判・表】 ・前時の内容を踏まえて、他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために話を聞いて、要点を捉えている。（観察） 【態度】 ・他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために、話を聞いて要点を捉えようとしている。（観察）
5	Part 3 ◆相手の意見への賛成・反対の仕方、理由の述べ方を理解する。 ○　導入での言語活動、プリントを用いての練習問題、話合い活動	【態度】 ・今までの内容を踏まえつつ、重要表現を使って相手の意見に対しての自分の意見を伝えようとしている。 （プリント・観察）
6	Part 3 ◆相手の意見に対しての自分の考えを述べる。 ○　Lesson6-3 教科書本文を用いての新出単語、重要表現や重要語句の確認	【思・判・表】 ・前時の内容を踏まえて、自分の考えを簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。（観察）
7	Tips 7 for Speaking ◆即興で自分の意見を伝えよう。 ○　教科書 Tips を参考にしながら、即興で自分の意見を伝える活動 **★ルーブリックの活用・ＩＣＴの活用**	【思・判・表】 ・会話をする際のポイントに気を付けながら、事実や考えを即興で伝えている。（観察）
8	◆Lesson6 まとめよう。 **★パフォーマンス課題（ペアでの話合い）** ○　パフォーマンステスト ○　振り返りと今後の取組の確認	【思・判・表】 ・相手の意見を聞いて自分の意見を深めたり、自分の意見を伝えたりするために、３つの話題について自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。（観察）